

すわみつえ通信

No.352 2025年3月3日

日本共産党鴻巣市議会議員
諒訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届け
たい声がある 声をかたちに

市田忠義・日本共産党副委員長 (元参議院議員)と大いに語り合う

日本共産党鴻巣市委員会は2月24日に党副委員長の市田忠義氏を迎えて、鴻巣市市民活動センターで「希望を語り合うつどい」を開催しました。急な取り組みでしたが、55名の参加で会場いっぱいとなりました。



市民活動センター=2月24日

ご挨拶の冒頭、22日・23日で青森市・弘前市の会場3か所でつどいに出席し、明後日は福島に向かうと話されました。市田氏が鴻巣市に来られたのは12年ぶりです。「講演」という形ではなく今回は、対話型でお話しを伺い、もやもやとしていたことも払拭されました。

総選挙の結果…「総選挙の結果をどう みたらよいか 参院選で躍進するためには」

与党が過半数を割ったことは憲法改定のための3分の2の議席がない。簡単に憲法を変えられないということ。日本共産党のしんぶん赤旗がスクープした裏金問題が大きな役割を果たしたが、共産党は2議席減らす結果となった。政策を届けきることができなかった。選挙で勝つために党を大きくしていく必要がある。それとともにインスタグラムやユーチューブ、TIKTOKなどの「SNS」の活用が大事。5年から10年かけて準備する必要がある。

平和のこと…「中国や北朝鮮を みていると軍備が必要なのでは」

「軍事」対「軍事」で平和は守れるか。偶発的なことで戦争は始まる。

東南アジア諸国連合(ASEAN)は武力の不行使と紛争の平和的解決を誓約した東南アジア友好協力条約(TAC)を締結し、この条約を土台に、「もめごとは防げないが絶対戦争にはしない」と1年に1500回も会議を持っている。膝つめ合わせて話し合いをすることで戦争を回避できる。

暮らしのこと…「物価高で暮らしが 大変 どうすれば暮らしが守れる」

自公政治は人件費の「コストカット経済」をやってきた。正規社員より非正規社員を増やした。その結果、国民のふところを冷え込ませた。

ユニクロの柳井会長は毎日10億円を使える報酬。大企業優遇税制に消費税が使われた。税の原則「生計費非課税」「応能負担」の政治にしていくこと。

質問にわかりやすく答え、答える時間が 無かった質問は後日、返信メールで連絡

会場からは「マイナカードは必要か」「メディアが共産党の報道をしないのは」「年金積立金は」「お米がなぜ高い」「共産党支持が増えないのは」など沢山の質問が出され、ひとつひとつ丁寧に答えてくれました。

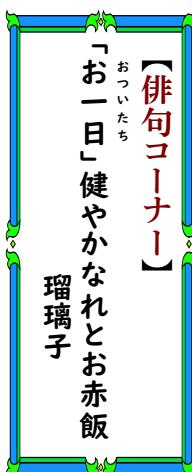
=参加された方への丁寧な対応に感謝=

時間の関係で答え切れなかった質問に、市田氏は「連絡先を書いてくれればメールなどで必ず返事をします」と結びました。

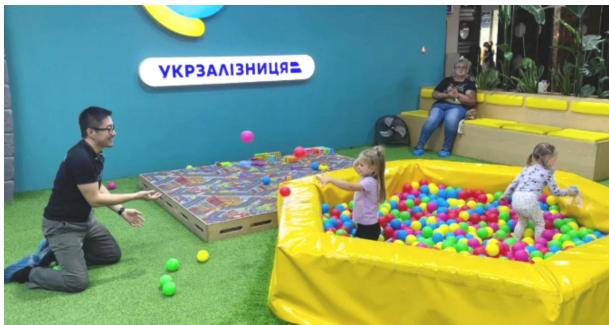
後日、参加者から「確かに返信メールで答えていただきました」と嬉しい報告が寄せられました。

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口



ウクライナ侵略3年 子どもの心むしばむ ユニセフ「支援継続必要」



国連児童基金(ユニセフ)が設置した遊び場で子供と遊ぶ矢上大顕さん(左)=24年9月、ウクライナ・キーウ(ユニセフ提供)

ロシアによる侵略から3年を迎えたウクライナで、戦地に暮らす子どもたちの精神的ダメージが深刻化しています。国連によると、侵略開始以降に18歳未満の2520人以上が死傷し、5人に1人が近親者や友人を失いました。戦争が長期化する中、国連児童基金(ユニセフ)ウクライナ事務所の矢上大顕さんは、「子どもたちへの支援を続けていくことが必要だ」と訴えます。

2023年から支援事業の評価などに携わる矢上さんは、「ウクライナの子どもたちの精神面、発達面、学習条件など、目に見えにくい部分への影響を懸念している」と語ります。実際、戦時下で幼少期を過ごした子どもは、心の病を患うリスクが高まると言われます。

学校に通えないことも、子どもたちのストレスに拍車を掛けています。ウクライナではこれまでに160超の教育施設が損壊。約4割の子どもがオンラインのみや、対面と遠隔を組み合わせた授業で学びます。級友らと交流する機会が失われ、10代の若者の3分の1が絶望感を抱えているとの報告もあります。

子どもたちの精神面の負担を少しでも軽減するため、ユニセフは地下シェルターに教室を整備するハード支援のほか、家庭訪問や公共の場を遊び場として開放することなどソフト面のケアを強化。矢上さんはキーウ駅に設けた遊び場で、パニック発作を起こす幼い子どもを連れた母親から「戦争をひとときでも忘れられる場所があって、ありがたい」と声を掛けられ、心動かされたといいます。

しかし、ロシアからの攻撃は続き、国連によれば、24年に死傷した子どもは前年比で57%増加。戦争が長期化すればするほど、子どもたちの心の傷も深くなります。矢上さんは「子どもがいなくなれば、国の将来もなくなる。危機的状況にいる子どもたちを守らなければならぬ」と力を込めました。

【しんぶん赤旗 2月26日付掲載 (原文:時事通信社から)】

◆◆◆◆◆<金口木舌>毒素を排出する 琉球新報 2月27日付 コラム◆◆◆◆◆

なぜか怒りっぽくなったり、いらついたりする。そんな症状の原因の一つにはスマートフォンなどデジタル機器の影響も考えられる。次々に掲示される情報処理に追われる脳の過労が症状を起こすという

▼身に覚えはある。各省庁や企業から何十通ものメール。報道各社からのニュース配信も絶え間ない。連日押し寄せる情報に接するうちに症状が出て、果ては良からぬことが口を突いて出る

▼デジタル機器に八つ当たりしてもしょうがない。症状緩和には「デジタルデトックス」が有効という。一時的にデジタル機器の使用を控える。すると脳の疲労回復が促されるという

▼世界で比類なき過労を重ねるトランプ米大統領にもお勧めしたい。いらだちのせいか、症状は深刻だ。ウクライナのゼレンスキーダー統領を「選挙なき独裁者」呼ばわりだ。任期は確かに昨年5月までだったが、戦時下で選挙ができないのは承知のはず

▼デトックスとは体内に入った毒素を排出すること。虚実入り交じるデジタル情報からわき出る毒素をため込むと体によくない。トランプ氏と共有したい日本の言葉を伝えよう。「頭を冷やそう」